

Skin diseases caused by arthropods and other noxious animals

28章 節足動物などによる皮膚疾患

節足動物により、非常に多様な皮膚症状を生じる。節足動物に吸血されたり、毒毛や体液が付着することにより、接触皮膚炎などのアレルギー反応や二次感染が生じる。体内に侵入したり、皮表に残存することで皮膚症状が生じることもある。また、節足動物に媒介される病原体によって全身症状を呈することもある。本章では、このような節足動物などに関連した皮膚疾患を取り上げる。

A. 昆虫などによる皮膚疾患 diseases caused by insects and other noxious animals

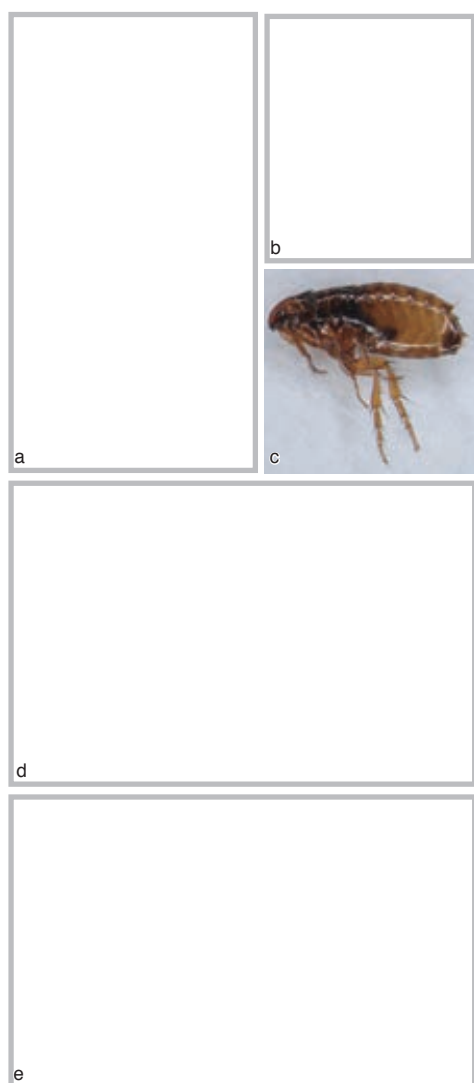


図 28.1① 虫刺症 (insect bite)
a, b: 下腿の緊満性水疱。ネコノミによることが判明した。c: ネコノミの拡大写真 (雌)。d: 下腿の掻痒性紅斑。e: 上眼瞼部。周囲の著明な浮腫。

1. 虫刺症 insect bite

蚊、ブユ、アブ、ハチなどの昆虫から刺咬されて生じる皮膚炎の総称である。吸血の際に注入される唾液成分に対するアレルギー反応、あるいは虫の毒液に含まれるヒスタミン類によって症状が引き起こされると考えられる。したがって、年齢や注入された毒液量、アレルギー反応の程度によって症状の個人差が大きい。刺咬直後から掻痒を伴う膨疹や紅斑が出現し、1～2時間で軽快する即時型反応と、刺咬後1～2日で紅斑、丘疹や水疱を生じる遅延型反応がみられる (図 28.1)。皮疹にはステロイド外用を行い、掻痒には抗ヒスタミン薬を内服する。ハチ刺症の場合、アナフィラキシーショックを生じることがあるため、全身管理ができるよう慎重に経過をみる必要がある。

2. 蚊アレルギー hypersensitivity to mosquito bite

蚊に刺された後、注入された唾液成分に対する異常なアレルギー反応が起こり、高熱や肝機能障害、リンパ節腫大などの全身症状を生じる。局所では水疱、血疱を形成し、その後、腫脹、硬結、壊死、潰瘍を認める。経過中は種痘様水疱症 (13章 p.234 参照) と臨床症状、病理所見が類似している場合がある。慢性活動性 EB ウイルス感染症の一症状として生じることがあり、将来的に血球貪食症候群や NK/T 細胞リンパ腫を発症して予後不良になることがある。

ハチ刺症 (bee sting)

MEMO